

資
料

帝国カンマー裁判所法（二五五五年）(4)

文 字 浩

二 〔承前〕

1. 査察、改革、皇帝のカンマー裁判所構成員の処罰一般。

§.5. また、カンマー裁判所により不当にあしらわれたとの不服のある選帝侯、諸侯、等族は、五月一日までにその者の不
服状を任命されたコミサールに送付し判断を求めるべきであり求めうる。それらのコミサールは、その他の査察官とともに
それにつきしかるべき調査と改革を行う権能を有する。⁽¹⁾

(1) RA 1512, II, §. 23, 28.; RA 1518, §. 10.; RA 1524, §. 23.; RA 1530, §. 94, RA 1532, III, §. 18.

§.6. さらに、カンマー裁判所の構成員、あるいは、カンマー裁判所での陳述のために派遣される者、当事者、アンヴァル
トに対して不法や悪行がなされるとき、朕は、〔以下のごとく〕定める。その地のオーブリツヒカイトは、直ちにそれらの

者の身を守らせ、その都度、カンマー裁判所長および陪席判決人に遅滞なく回答させ、さらに、このような犯行者は牢獄に収容され、ついで、審理の後、処罰のために牢獄に収監されるべきである。また、カンマー裁判所長および陪席判決人は、護衛された者を助けて満足を得させ、あるいは、事件が身体刑を必要とし、あるいは、明白にかその他の信頼しうる理由からそうであるとき、カンマー裁判所長および陪席判決人はそれにつき前以て充分な情報を得、ついで、上述の地のオーブリッヒカイトに、しかるべく権限を付与して処罰することを命じるべきである。⁽¹⁾

(1) RKGO 1495, §. 15.

LI. 陪席判決人の処罰およびその者に対して言い渡された判決につき

いかに審理されうるかについて。

§. 1. 不当あるいは無効な判決を下した陪席判決人に対して、訴訟記録の再審査およびシンディカートによりいかに審理されるか、また、その者に対していかなる処罰がなされるべきかについては、以下本法第三部⁽¹⁾において、「訴訟記録の再審査について」のタイトルのもとに規定される。

(1) RKGO 1555, III, L.

§. 2. また、陪席判決人に対して、さらに、その無能、拙劣、怠惰につきいかに審理されるべきかは、先に「陪席判決人の無能さについて」のタイトルのもとに規定されている。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, V.

LII. アドヴォカートおよびプロクラートルの処罰について⁽¹⁾

(一) RKGO 1500, VII.; RKGO (Rb) 1507, VII, §. 1, 2.; RKGO 1521, XV, XXV.; RKGO 1523, VII, §. 13.; RKGO 1527, §. 19.; RA 1530, §. 79.; GB 6. 1537.; GB 27. 11. 1539, §. 18.; GB 19. 7. 1532.; RKGO 1555, I, IX, I, XI, §. 3 ff., 6., I, XXIII, §. 2, 10., I, XLVI, §. 3., III, XXXVII, III, XL.

§. 1. また、本法において、皇帝のフィスカルやその他のアドヴォカートとプロクラートルが、合議体、書記局、公判廷において、口頭および書面による陳述、また、期日の遵守、一定の決められた数の書面の提出、それらの者の委任状等の書面の提出、争点の決定、口頭による手続終結等その他すべての陳述を個々にいかに行うか、また、いかにして、何時、いかなる程度・順序でこれらすべてが行われるべきか、とりわけ、それらの者が、陳述の際に無駄で余計不要な言葉を発せず、いかなる者も他の者を書面あるいは口頭にて侮辱せず、公判廷の前で礼儀正しくふるまうべきことが一所ならず規定されているので、それらすべてが遵守されるように朕は定める。それらの者の一名あるいは数名の者が上述のような場合において、本法の一箇所ないし数箇所につきこれを遵守せず、それに違背して何かを行ったときは、その者は、行う度ごとに、違反行為の情況に従い、本法と普通法により重罰に処せられない限り、一グルデンの罰金に処せられ、加えて、その者の陳述は採用されず、公然と非難され、その者に対しそれにつき何ら査定されず、さらに、事件の情況に従って処罰される⁽¹⁾。

(一) RKGO 1521, T. XV, XX.; RKGO 1555, I, XLVI, §. 3., III, XXXVII u. XL, §. 1.

§. 2. そして、これらすべてのことは、カンマー裁判所長および陪席判決人に留保され、各アドヴォカートおよびプロクラートルに対し、公判廷の内外におけるその者の違反とその他の拙劣さにつき、普通法上の処罰、高額の罰金、あるいは、そのための小房に数日間の拘束という刑罰に処するか、だが、その者に人が接触できるか、さもなければ投獄でか、その者の停職あるいは免職か、あるいは、プロクラートルの身分におけるその者の地位の変更かを裁判所の裁量にて処罰することは、

それらの者の権限と決定に委ねられて⁽¹⁾いる。

(1) RKGO 1521, T. XX.; RKGO 1555, I, XI, §. 6.; VA 1550, §. 14.

§. 3. 上述のごとく処罰されたプロクラートルは、その者がカンマー裁判所に対して行つた宣誓と義務により、この罰金をその者に償還することを依頼人である当事者から要求してはならず、あるいはまた、その者にこれが提供されたときは、いかなる場合においてもこれを受け取ってはならない。⁽¹⁾

(1) RKGO 1523, VII, §. 13.

LIII. 罰金は貧困者のために支出されるべきこと。

朕はまた定める。上述のすべての罰金は、以後、それらの者の召喚状等の裁判所書面の告知のため、送達吏に対し報酬を支払えない貧困当事者の救済のためなどに、それにつきさらに裁判所の決定により支出される。⁽¹⁾

(1) RKGO 1500, T. LXVII.

LIV. 書記局員の処罰について。⁽¹⁾

(1) RKGO 1521, T. XIII.

また、それらの者の職務を司らず、職務上違背した皇帝のカンマー裁判所の書記局員は、違法行為の重さと情況に従い、書記局長により、あるいは、違法行為の重大さがそれを必要とするときは、カンマー裁判所長および陪席判決人により処罰される。

LV. 送達吏の処罰について⁽¹⁾。

(1) RKGO 1555, I, XLVII, §. 5.

その職務の遂行を懈怠し、朕の本法の一条ないし数条に違反し、あるいは、これを遵守せず、とりわけ、確定した報酬額を超えて当事者に負担を負わせ、あるいは、利得を追求し、もしくは、その他しかるべき態度を取らない送達長ないし送達吏は、陪席判決人と協議の上、皇帝のカンマー裁判所長により、違反が軽微なときは受命裁判官により、事柄の情況に応じて、懈怠せず厳しく投獄、免職、その他の方法にて処罰されるべきである。

LVI. 貧困当事者の処罰について。

貧困当事者につきどのように注意が払われ、それらの者がその放埒な事件につきいかに処罰されるかは、貧困当事者のタイトルのもとに先に規定されている。⁽¹⁾

(1) RKGO 1555, I, XLI.

カンマー裁判所構成員および裁判所にて陳述しなければならない当事者の宣誓について。⁽¹⁾

(1) KGO 1471, §. 1.; EKGO 1486, II.; RKGO 1495, §. 3-7.; OEPK 1538.; RA 1544, §. 92.; Passauer V 1552, §. 10.; RA 1555, §. 107.; RKGO 1555, I, XIII, §. 1.

LVII. 皇帝のカンマー裁判所長および陪席判決人の宣誓について。

また、カンマー裁判官および陪席判決人は、それぞれ採用前に、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓し、皇帝のカンマー裁判所にて誠実かつ勤勉に従事し、帝国の普通法⁽¹⁾、決議、および現に承認されこの帝国議会にて締結された宗教事件その他の事件に関する平和法、また、平和の司掌法、そして、諸侯領、ヘルシャフト、裁判所のそれらの者の面前に提出された適宜で尊重すべき地方に普通な法、条例、慣習法に従つて、身分の高低にかかわらず、全力を尽くして等しく裁判し、それに反するいかなることに心をも動かされないこと。また、当事者あるいは他の誰からも裁判所に係属あるいは係属するであろう事件につき、贈物あるいは利得を自らあるいは他の者により、人のたくらみうることに収受あるいは収受させないこと。また、公判廷においてある当事者を特別扱いしたり、判決において有利に付加したりせず、当事者に助言や忠告をせず、事件につき合議体にて審議されたことを、判決の前後を問わず、当事者にも誰にも開示せず、また、悪意から訴訟を滞らせず、加えて、述べられたごとく、その者がそれにつき任命されたフィスカル訴訟、および、法律上その者に対して判決することが適当でなくかつ退廷すべき訴訟以外の訴訟は引き受けたり、それにつき助言すべきでない⁽²⁾。また、他のいかなる義務も約束もその者を、この宣誓のすべての点において、あらゆる悪意なしに妨げるべきでない⁽²⁾。

- (1) シュテュウス版では、この下で皇帝法が意味される *im Reich* (J.J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aaO., S. 79, N.d.)。
 (2) OEPK 1538, Pt.; RKGO 1555, I, VI.

LVIII. 書記局長の宣誓

書記局長は、皇帝陛下あるいは汝等の親愛なる皇帝陛下に代わる皇帝のカンマー裁判所に対し、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓し、その者の職務を誠実に遂行し、書記局の問題点に注意を怠らず、可能な限り構成員その他の問題点を改め矯正

し、また、構成員がそれらの者の職務を勤勉に司るよう常にしかるべく監督をし、朕の甥であり選帝侯であるマインツ大司教の代わりに朕の印璽を良く管理し、カンマー裁判所により裁判された事件以外の事件ではこれを用いたり用いさせたりせず、また、秘密の裁判所の審理およびその都度事件につき協議されたことを誰にも開示せず、いかなる当事者にも相手方当事者に不利にそのことを助言せず、贈物を收受せず、あるいは、その者のために利得を收受させず、すべてを誠実にかつ悪意なしに。

LIX. 書記およびレーザーの宣誓。

§. 1. さらに、プロトノタール、ノタール、レーザーは皇帝陛下あるいは汝等の親愛なる皇帝陛下に代わるカンマー裁判所長に対し、神および神聖なエバンゲリウムに宣誓し、それらの者の記載し蒐集するなどの職務を誠実に遂行し、また、裁判所に提出される書面を誠実に裁判所に保存し、当事者その他のいかなる者に対しても、事件につき裁判所長と陪席判決人の合議体で審議されたことを開示せず、また裁判所の業務上の秘密をいかなる者にも開示せず、閲読させず、裁判所の許可なしに提出された書面の写しを当事者に交付せず、また、相手方当事者に反して一方の当事者に助言や忠告をせず、人がたくらみうるごとくに、贈物を收受せず、その者に利得を收受させずその者の報酬で満足すべきである。あらゆる悪意なしに。⁽¹⁾

(一) KGO 1471, §. 2.; EGO 1486, IV.; RKGO 1495, §. 5.; RKGO 1496, IV, §. 1.; RKGO 1500, XXVIII.; RKGO (Rb) 1507, VI, VIII, §. 1.; RKGO 1521, §. 3.; OEPK 1538, I.; RKGO 1555, I, XXVIII, §. 1.

§. 2. このような宣誓では、提出された書面の写しは裁判所の許可の裁判なしに当事者に交付されるべきでないが、この各訴訟において行われるべき許可の裁判の遅延が目立つようであれば、この宣誓は、普通法も明示しているごとく、当事者の申立に基づき、プロトノタールもすべての提出書面の写しを交付しようというようにゆるやかに解釈されるべきである。⁽¹⁾

(1) EKG 1486, IV, §. 2.; RA 1498, §. 27.; RKGO 1500, T. XXVII.

LX. フィスカルの宣誓⁽¹⁾。

(1) RKGO 1521, IX.; OEPG 1538, II.; RKGO 1555, I, XV, §. 1.

フィスカルは神と神聖なエヴマンゲリウムに宣誓し、その者に命ぜられたあるいは命じられる、あるいは、フィスカルたるその者に生じ、職務上行うにふさわしい各訴訟および業務のすべてにつき、申し分のない誠実さで主張し、皇帝陛下と国库のために全力を尽くして勤勉に陳述して行為し、そこにおいて、いかなる者をも他の者より尊重せず、意識的にいかなる不実あるいは不法をなさず、訴訟を遅延させるための害意のある期日の延期を試みず、またカンマー裁判所長および二名の陪席判決人の特別な了承と命令のある場合の外は、相手方当事者と約束をせず、その者が訴訟において知った秘密、教示、攻撃防御方法を開示して国库に損害を与えず、裁判所と裁判所構成員に敬意を表し、裁判所の面前では礼儀を重んじ、裁判所の裁量による処罰の下に誹謗中傷をせず、また、その者の職務とフィスカルの訴訟につき贈物などの利得を自らあるいは他の者により、人がたくらみうるごとくに收受せず、あるいは、誰かにその者のために收受させないこと。加えて、ただフィスカル訴訟だけを司り、その他の訴訟と関わって助言や訴訟行為を行うような負担を蒙ることなく、その他、その者の職務につき制定された法を厳守すること、あらゆる誠実さと悪意なしに。

(1) シュマウス版によると、一五五五年法では *Lastierung bey Pon und Ermassung des Gerichts* となつてゐるが (J. J. Schnaus u. H. Ch. Senckenberg, aO., Bd. III-IV, S. 80.)、一五三八年法では *Lastierung bey Pon, nach Ermassung des Gerichts* (J. J. Schnaus u. H. Ch. Senckenberg, aO., Bd. I-II, S. 428.) となつてゐる。本文は同趣旨のものとして訳出しておいた。

LXI. フィスカルのアドヴォカートの宣誓⁽¹⁾。

(1) RKGÖ 1521, X.; OEPK 1538, III, IV.; RKGÖ 1555, I, XV, §. 2.

同様に、フィスカルのアドヴォカートは、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓し、その者に皇帝のカンマープロクラートル、ゲネラルフィスカルにより命じられた、ないし、命じられる、あるいは、フィスカルのためにその者に生じ、職務上行うにふさわしい各訴訟および業務のすべてにつき、申し分のない誠実さで主張し、皇帝陛下と国庫のために全力を尽くして勤勉に陳述し、そこにおいて、いかなる者をも他の者より尊重せず、意識的にいかなる不実あるいは不法をなさず、訴訟を遅延させるための害意のある期日の延期を試みないこと。また、皇帝陛下、あるいは、汝等の親愛なる皇帝陛下が欠席のときは、ローマ国王たる朕、あるいは、ゲネラルフィスカルの特別な了承と命令のある場合の外は、相手方当事者と約束をせず、その者が訴訟において知った秘密、教示、攻撃防御方法を開示して国庫に損害を与えず、裁判所と裁判所構成員に敬意を表し、裁判所の面前では礼儀を重んじ、裁判所の裁量による処罰の下に誹謗中傷をしようとせず、あらゆる誠実さと悪意なしに。

(1) 一五五五年法に³⁶シュマウス版では³⁷ durch den Kayserl. Cammer-Procuratorn General Fiscal n (J. J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aAO, Bd. III-IV, S. 80.)³⁸ ラウフス版では³⁹ durch den key. cammer-procurator-general-fiscal n (A. Laufs, aAO, S. 153.)⁴⁰ 一五三八年法に⁴¹ Königl. und Kayserlichen Cammer-Procuratorn, General-Fiscal n (J. J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aAO, Bd. I-II, S. 421.)⁴² 本文は Cammer-Procuratorn, General-Fiscal の意味でシュマウス版によって訳出しておいた。

LXII. 皇帝のカンマー裁判所におけるアドヴォカートの宣誓⁽¹⁾

(1) 本条文は、RKGO 1555, I, LXIV. のラテン語条文であるので本稿では省略する。

LXIII. プロクラートルの宣誓⁽¹⁾

(1) KGO 1471, §. 4.; EKGO 1486, V.; RKGO 1495, §. 6.; OEPK 1538, V/2.

裁判所がこの職務に採用したプロクラートルは、思慮深く、皇帝陛下、あるいは、汝等の親愛なる皇帝陛下に代わるカンマー裁判所長に対し、神および神聖なエバンゲリウムに宣誓すべきである。それらの者は、訴訟における陳述のためにそれらの者を採用した当事者のために、その訴訟において申し分のない誠実さで主張し、当事者のためにその訴訟を全力を尽くして勤勉に陳述し、そこにおいて、意識的にいかなる不実あるいは不法をなさず、訴訟を遅延させるための害意のある期日の延期を試みず、当事者にそれを行うことを教示せず、またそれらの者が当事者から訴訟においてレイトナーとなる事件の一部を得るあるいは期待するとの約束を当事者としてないこと、また、それらの者が当事者から得た秘密や攻撃防御方法、あるいは、それらの者が自ら気づくであろう訴訟についての情報を当事者を害するために誰に対しても開示せず、裁判所と裁判所構成員に敬意を表し、裁判所の面前にて礼儀を重んじ、裁判所の裁量による処罰の下に誹謗中傷をせず、さらに、カンマー裁判所法によればふさわしい報酬を超えて、増額しようとしたり、その他の不平を述べようとしないこと。そして、報酬につき、それらの者と当事者の間に争いが生じたときは、それにつき、カンマー裁判所長およびその者が採用して依頼した陪席判決人にはかられ、これがそれらの者によりいかに決定されようとも、それに満足して従い、また、それらの者は、引き受けた、あるいは、引き受けるであろう事件につき、しかるべき理由も適法な許可もなしに断念しようとせず、訴訟の終結に至るまで当事者のためにあらゆる悪意なしに誠実に訴訟行為を行おうとすべきである。

LXIV. アドヴォカートの宣誓⁽¹⁾。

(1) KGO 1471, §. 5.; EKG 1486, V.; RKGO 1495, §. 7.; OEPK 1538, VI.

皇帝のカンマー裁判所のアドヴォカートは、神と神聖エバンゲリウムに宣誓し、それらの者は、その事件につき訴訟することを引き受けた当事者のために、申し分のない誠実さで主張し、その訴訟において全力を尽くして当事者のために勤勉に業務を行い、そこにおいて、意識的にいかなる不実、悪意、不法をなさず、また、それらの者がアドヴォカートである事件の一部を得る、あるいは、期待する⁽¹⁾とのいかなる約束も当事者とせず、また、それらの者が当事者から得た秘密や攻撃防衛の方法、あるいは、それらの者が自ら気づくであろう訴訟についての情報を当事者を害する目的で誰にも開示せず、裁判所と裁判所構成員に敬意を表し、裁判所の面前にて礼儀を重んじ、裁判所の裁量による処罰の下で誹謗中傷をせず、また、カンマー裁判所法によればふさわしい報酬を超えて、増額したりその他の不平を述べようとしないこと。そして、報酬につき、それらの者と当事者の間に争いが生じたときは、それにつき、カンマー裁判所長およびその者が用いあるいは命じた陪席判決人にはかれ、それらの者によりこれがいかに決定されようとも、それに満足して従うべきこと。また、それらの者はしかるべき理由もなしに、引き受けた事件から辞退せず、訴訟の終結に至るまで当事者のためにあらゆる悪意なく誠実に業務を行おうとすべきである。

(1) シュマウス版では 'zu haben, oder zu erwarten' となつてゐる (J. J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aO., S. 81.)。ラウフス版では 'zu warten oder zu warten' となつてゐる (A. Laufs, aO., S. 155.)。後者は恐らくヘミスプリントであらう。

LXV. プロクラートルは不悪意の宣誓をいかにすべきか。⁽¹⁾

(1) RKG 1495, § 10.; NotarO. 1512, III, § 2.; OEPK 1538, VII.; RKG 1555, I, XXV.

不悪意についての宣誓は、以下の形式にてプロクラートルに朗読される。汝等は、汝等の当事者と汝等自身に誓って神と神聖エバンゲリウムに宣誓するであろう。汝等はよき訴訟をしていると信ずること、また、不要で悪意のある訴訟の延期を求めず、訴訟において、質問されることに真実を隠さず、また、この訴訟において、勝訴判決を得たいがためにいかなる者にも法が認めているもの以外の何かを与えたり与える約束をしようとせず、すべてを誠実に悪意なく行うこと。当事者本人もまた同様に宣誓を行わなければならない。

LXVI. プロクラートルが査定された費用を宣誓して確定しようとするとき、
プロクラートルはいかに宣誓すべきか。⁽¹⁾

(1) OEPK 1538, VIII.

汝等は、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓するであろう。汝等の当事者に誓って、当事者は、この訴訟において、Nライニッシュグルデン以上でこれを下回らない裁判費用を支払ったこと、そして、汝等自身に誓って、汝等はこれを行うための代理権を当事者から得て指示されたこと。あらゆる悪意なしに〔行うこと〕。

LXVII. 別の宣誓。⁽¹⁾

(1) OEPK 1538, IX.

私は、私の提出された訴訟委任状に基づき宣誓する。その委任者に誓って、その者が、この訴訟において、Nライニツシユグルデン以上でこれを下回らないの訴訟費用を支払ったこと、私自身に誓って、私は悪意なしにこれを行う権限をその者から得て指示されたこと。

LXVIII. 当事者本人がこの宣誓を行うとき。⁽¹⁾

(1) OEPK 1538, X.

私は、この訴訟において悪意なしにNライニツシユグルデンの訴訟費用を支払った。

LXIX. 続いて原告のアンヴァルトが宣誓により項目状を提出する際の宣誓。⁽¹⁾

(1) Notaro. 1512, III, §. 3.; OEPK 1538, XI.

アンヴァルトたる汝等は、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓するであろう。この訴訟において、汝等により提出された項目状は、汝等の当事者自身の行為に関する限り真実であり、それが他人の行為に関する限り、汝等が真実であると信じて。

LXX. 原告が宣誓により自ら項目状を提出する際の宣誓の形式。⁽¹⁾

(1) Notaro. 1512, III, §. 3.; OEPK 1538, XII.

この訴訟において、私により提出された項目状は、私自身の行為に関する限り真実であり、他人の行為に関する限り、私

は真実であると信じると、あらゆる悪意なしに。

LXXI. 被告自ら出席したときの原告の項目状に対する被告の宣誓⁽¹⁾。

(1) OEPK 1538, XIII.

汝等は、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓するであろう。汝等は、相手方により提出され許された項目に対し、項目ごとに真実に従い、汝等がそれを真実であると信じないかを、あらゆる悪意なしに答弁しようとする。

(1) シュテウス版では einen Eid zu GOTT, und auff das Heil. Evangelium となつてゐるが (J. J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aaO., S. 82.) ラウンス版では eynen zu Gott [und] auf das heylig evangelium となつてゐる (A. Laufs, aaO., S. 157.)。

LXXII. 別の宣誓⁽¹⁾。

(1) Notaro. 1512, III, §. 4.; OEPK 1538, XIII.

私は、この訴訟において相手方により私に対し提出されたすべての項目に対し、真実に従い、私がそれを信じないかを、あらゆる悪意なしに答弁しようとする。

LXXIII. 被告のアンヴァルトが原告のアンヴァルトの項目に答弁する際の宣誓⁽¹⁾。

(1) OEPK 1538, XIV.

アンヴァルトたる汝等は、現に行うであろう宣誓の下で、この訴訟において、汝等の相手方により提出され汝等に手渡された項目に対し、汝等がそれを真実であるあるいは真実でないと信じるとの言葉によって、あらゆる悪意を排除して答弁しなければならない。

LXXIV. プロクラートルがその者自身と当事者に誓って行う不悪意の宣誓⁽¹⁾について⁽²⁾。

(1) 原文は *Der Eid der Boßheit/ genant Juramentum malitiae* である (J. J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aaO, S. 82)。直訳すれば、「ユースラメントウム・マリティアエと呼ばれている悪意の宣誓」とでも訳すことになるが、本文では意味内容を考えて単に「不悪意の宣誓」と訳した。

(2) OEPK 1538. XV.

不悪意の宣誓は、プロクラートルにより以下の形式で朗読されるべきである。汝等は、当事者と自らに誓って、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓するであろう。汝等がこれを良心にて行うことができるとき、汝等は、害意や悪意からでも訴訟の引き延ばしのためからでもなく、ただ必要であるがゆえに陳述し申し立てていること、汝等は、これを行うように当事者から指示され訴訟代理権を得ていると。

LXXV. ある者が争いのためのクラートルとされるとき⁽¹⁾の宣誓。

(1) OEPK 1538. XVI.

汝等は、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓するであろう。汝等は、汝等が争いのためのクラートルに委ねたNが汝等の示された訴訟において有益有用である各すべてのことを全力を尽くして誠実に言い提出し、真実を用い、それにつき懈怠せ

ず滞らせず、また無益かつ有害なことを避けて用いず、許されて用いられず、この訴訟において汝等の入手したすべてを前述のNにすべて渡し、あらゆる悪意なしに〔行うこと〕。

LXXVI. ある者あるいは数名の者が後見人とされプロクラートルにより

宣誓されるとき⁽¹⁾の宣誓。

(1) OEPK 1538, XVII.

アンヴァルトN・Nとしての汝等N・Nは、汝等の提出された訴訟委任状に基づき、そのN・Nの名において、汝等に誓って神と神聖なエバンゲリウムに〔以下のごとく〕宣誓すべきである。汝等は、その後見につき汝等が証明を求められた孤児C・Dにとって有益なことのそれぞれすべてを行うこと、無用かつ有害なことを控えて行わず、避け、その息子の財産と人につき、その者のために誠実の限りに代理し、容易周到にその者の財産目録を作成させ、適切な時期に汝等の管理と業務を考慮して、完全に譲渡すること、そして、汝等は、その者に対して義務があり、さらに、誠実な後見人に属するすべてのことを行おうとすること、すべてを汝等の財産を担保にして、あらゆる悪意なしに〔行うこと〕。

LXXVII. 証人宣誓の形式⁽¹⁾。

(1) OEPK 1538, XVIII.

汝等は、神と神聖なエバンゲリウムに〔以下のことを〕宣誓をすべきである。汝等は、項目に対して訴訟で許可され、NとNとの全訴訟において、両当事者の面前にて、いずれにも好意も害意もなく、汝等が求められ質問されたことにつき知っている真実を述べようとし、このことを贈物、恩恵、私利、嫌悪、親しさ、恐れ、人が考えうるその他のことゆえに放棄し

ない。

LXXVIII. 貧困者の宣誓⁽¹⁾。

(1) OEPK 1538, XIX.; RKGO 1555, I, XIX, §.5, I, XLI.

汝等 N は神と神聖なエバンゲリウムに〔以下のごとく〕宣誓すべきである。汝等は、貧しく、また、不動産も動産もなく、借金もできず、書記局に必要な書面のための支払いも、汝等のアドヴォカートおよびプロクレートルに対する報酬の支払いもできないこと。また、汝等は、そのために汝等の財産を悪意で譲渡せず、汝等が勝訴するか、より良い財産状況になったとき、各人にその者の応分に從つて支払おうとし、あらゆる誠実さと悪意なしに〔行うこと〕。

LXXIX. カンマー裁判所の秘書、清書人、コピーステンの宣誓。

皇帝のカンマー裁判所の書記局に任命された秘書、清書人、コピーステンは、皇帝陛下、あるいは、汝等の親愛なる皇帝陛下に代わるカンマー裁判所長⁽¹⁾に対し、神および神聖なエバンゲリウムに〔以下のごとく〕宣誓すべきである。汝等は、書記局長およびプロクレートルの決定に従い、汝等の記載し、朗読し、清書し、写すという職務に誠実かつ勤勉を尽くして従事すること、そこにおいて、悪意を用いず、作成された判決、提出された証拠、調書、裁判上の陳述および書面に関する書記局の秘密を誰にも開示し、読み聞かせ、あるいは、読ませず、その写しを書記局長、プロクレートル、あるいは、ノターの許可なしに交付せず、そのために誰からも贈与を要求あるいは收受しないと。

(1) ラウフス版では 'keyserlichen maiestat [stat], となつてゐるが (A. Laufs, aaO., S. 159.) 'シムムス版では 'Kayserlichen Majestat Statt, となつてゐる (J. J. Schmaus u. H. Ch. Senckenberg, aaO., S. 83.)°

LXXX. 廷吏の宣誓⁽¹⁾。

(一) OEPK 1538, XX.; RKGO 1555, I, XL.

廷吏は、「(以下のごとく) 宣誓すべきである。廷吏がその者の職務に誠実かつ勤勉に従事し、皇帝のカンマー裁判所長および裁判所に対して従順であり、カンマー裁判所長および裁判所構成員を敬い支え、その者が聞き知った何らかの合議上の秘密を誰にも口外したり開示したりせず、当事者からその者の通常のしかるべき報酬を超えたものを收受せず、また、いかなる当事者に対しても他の当事者に害や不利になるように注意や助言をするなどの手助けをせず、さらに廷吏がなすにふさわしいことすべてをあらゆる誠実さと悪意なしに行うと。

LXXXI. カンマー裁判所の財務長(フエニツヒマイスター)の宣誓。

汝等は、神および神聖なエバンゲリウムに「(以下のごとく) 宣誓すべきである。汝等は、皇帝のカンマー裁判所の維持のために、指定された都市に、あるいは、等族により預けられている、あるいは、預けられるであろう税を最も少ない費用にて最も正当に汝等の、可能な限り迅速に、汝等の手と指定された箱にもたらし、それに関して、両替、貸付等の操作をせず、カンマー裁判所長および陪席判決人により汝等に行うように命ぜられるそれぞれの配分に至るまで、そのままにして誠実に一緒に保管されたままにしておき、上述の分配においては、その税を四半期ごとに、汝等がこれを受領したごとくに、金貨、貨幣にて皇帝陛下のカンマー裁判所の構成員に、各人にしかるべくその給与として分配し、それにつき各人を等しく扱うこと。また、その都度、指定された都市の参事会、あるいは、汝等が今後につきその税の徴収を命じた者から与えられた、上述の税につき金貨、貨幣にてそれらの者から受領したことの充分な書面、受領書を受け取り、各分配時に明示する。そして、カンマー裁判所の必要のために、カンマー裁判所の構成員に対するこのような上述「(の給与)」を超えて支出さ

れるべきものについては、カンマー裁判所長および陪席判決人の決定により行われ、上述の収支は相当なしかるべき記録簿に記載し、それにつきカンマー裁判所長および陪席判決人に正直で明瞭な届け出をし（これが汝等から求められる度ごとに）、さらに、法が汝等に課すことを行い、皇帝のカンマー裁判所に対し、最善と誠実を尽くして、汝等の深い理解の上に汝等の職務に従事しようとする」と。

LXXXII. 送達長の宣誓。

送達長は、皇帝陛下に代わる皇帝のカンマー裁判所長に対し、神および神聖なエバンゲリウムに宣誓し、その者は、その職務を誠実を尽くして遂行しようとし、皇帝の書面を携えた送達吏をできる限り迅速に派遣し、裁判所および裁判所構成員を敬い支え、さらに、法によりその者に課せられたことすべてを勤勉かつ誠実に悪意なく実行すべきである。

LXXXIII. カンマー裁判所の書記局下僕の宣誓。

その者は宣誓し、「扉を」開閉する職務を司り、書記局の世話に勤勉かつ誠実に従事し、作成された判決、提出された証拠、訴訟記録、調書、記録簿、書面のどれがそこにあるかに注意し、その者がそこに聞き知った秘密を、カンマー裁判所長、書記局長、プロトノタール、あるいは、ノタールの許可なしには誰にも開示したり読ませず、それにつきいかなる贈与も收受せず、勤勉で誠実な書記局下僕がなすべきこと以外のことを行わず、あらゆる誠実かつ悪意なしに（「行うべきである」）。

LXXXIV. カンマー送達吏の宣誓⁽¹⁾。

(一) RKG 1495, §. 10.; RKG 1496, IX, §. 1.; OEPK 1538, XXI.

さらに、皇帝のカンマー裁判所に採用された送達吏は、神と神聖なエバンゲリウムに宣誓し、朕のカンマー裁判所長および陪席判決人に従順であり、それらの者にその都度カンマー裁判所長、陪席判決人、受命陪席判決人、あるいは、送達長により委ねられ手渡された通知書、召喚状、裁判所の書面を誠実かつ熱心に送達し、このような書面の名宛人に対し、その者自身に、あるいは、法の規律に従い住居等にて交付して告知し、送達の日時と場所をそれに記載し、送達長にこれについての信頼に足る報告をし、また、その他の本法により送達吏にふさわしいすべてのことをあらゆる誠実さと悪意なしに〔行う〕べきである。

LXXXV. 医師、理髪師、その他の技術経験者がその者の技術の熟練に

基つき知りたることにつき行う宣誓⁽¹⁾。

(一) OEPK 1538, XXII.

それらの者は〔以下のごとく〕宣誓するであろう。それらの者は、それらの者が必要とされるこの訴訟において、これをそれらの者の技術的经验に基づいて知り、それらの者が独自に考えつく限り、いかなる者に対しても好意や害意、嫉妬、憎悪、忌避、愛顧、贈物ではなく、〔訴訟の〕促進のためにただ正義に従い、それらの者が事件の状況を見出したごとく真実を述べようとし、汝等の神と神聖なエバンゲリウムの助けの下にあると信じると。

LXXXVI. ユダヤ人の宣誓の秩序と形式。⁽¹⁾

(1) OEPK 1538, XXIII.

§. 1. 宣誓を課せられたユダヤ人は、その者が宣誓を行う前に、手と眼の前に、神がモーゼにシナイ山にて書いた神の戒律が示された書物を持ち、それに基づき、つぎのような言葉でユダヤ人であることを陳述して宣誓することができる。

§. 2. ユダヤ人たる我は、汝に宣誓する。天地および万物の創造者たる全能の神と、神がその僕たるモーゼにシナイ山にて与えたモーゼの五書たる律法にかけて、ここにあるこの書物が、それに基づきユダヤ人がキリスト教徒にあらういはユダヤ人に正当なしかるべき宣誓を行うことができかつすべき書物であるかどうかにつき汝が真実を述べようとしていると。